

今回は、「入社 1 年目の教科書」という本からです

## 仕事において大切な 3 つの原則…その 2

仕事に慣れてない段階では、どうしても 100 点満点の成果物を出そう考えてしまいがちです。もちろん、100 点を目指すことは素晴らしいことです。でも、そのために 1 ヶ月をかけるのであれば、1 週間で 50 点のものを出したほうがいい。**50 点の仕事に赤ペンを入れてもらい、アップグレードをしていけばいいのです。**ビジネスの現場は、誰の助けも借りず、何も見てはいけな学校試験とは違います。人の力を使うことは悪ではないのです。求められるのは、良い成果を出すこと、それにスピードです。すべてのリソースを総動員して、より良いアウトプットを 1 秒でも早く出すことです。リソースは資料や情報だけではありません。上司や先輩、仲間など、多くの人からのアドバイスも含まれます。この「50 点でも構わないから早く出せ」というテーマの趣旨は、上司、先輩の力をうまく使い、**総力戦で仕事を進めていってほしい**ということなのです。仕事によっては、調べてから聞きに行ったほうが良いものがあります。もちろん自分でできる最低限のことは必ずやってください。そのうえで、少し行き詰ってしまい、ここから先は上司の助言をもらった方が早く前に進むと思ったら、すぐに相談すべきです。仕事を抱え込んだ末、締め切り直前に提出したものが誤った方向に進んでいたらどうなるでしょう。**方向転換は、早ければ早いほどいい**のです。上司が忙しそうだから相談しにくいという遠慮は必要ありません。**上司の仕事というのは、部下の力を引き出してより良い成果を上げることだからです。**忙しいから部下の相手はできないという言い訳は成り立ちません。上司に配慮したいのであれば、5 分だけでもいいのです。重要なポイントだけを示し、「この部分につまずいています」と相談してください。あるいは「その点は悩まなくてもいいよ。むしろこっちに力を入れてくれ」という助言が得られるかもしれません。その点だけでも、仕事の進め方がまったく変わってきます。勇気を出して、誰よりも早く 50 点の仕事を出してください。**提出をゴールと考えるのではなく、最初のフィードバックをもらう機会**という気持ちでいけばいいのです。自分の仕事に対してフィードバックを早く頻繁にもらうことが、より早い成長につながると僕は確信しています。プレゼンテーションが上手になりたいなら、「プレゼンテーション術」という講義を 2 時間聴いてもあまり意味がありません。自分でやったプレゼンテーションを人に見てもらい、改善すべき点を指摘してもらったほうが、よほど効果的です。成長の近道は、実際にやってみることです。そして、やったことを直してもらうのです。その**経験を可能な限り短いサイクルで回し、自分の中に多くの経験値（経験知）のストックを増やせるか**という点が、成長の鍵になるとおもいます。

ビジネスの現場は、学校の試験とどのように違いますか？

( )

上司の仕事は何と言っていますか？

( )

より早い成長は何をしてもらうと良いと言っていますか？

( )

成長の近道は、何であると言っていますか？

( )